

店（本屋）の1日

37期生

I テーマ設定の理由

夜に書店によつてみると、けっこうたくさん的人がいる。僕は、そのことに疑問をもつた。そこで店内の様子の一週間の変化と、1日の変化について店内にいる人数をとおして知り、また、人々が書店にくる要素などを考えようと思った。

II 研究方法

[1] 人数調査（南海本線北助松駅前の谷口書店により行う。）

(1) 昭和58年7月26日から8月1日までの1週間、30分おきにその時点に店内にいる人数を調査する。

(2) 人数を年令と性別により、下のように分類する。

- 16才以上（高校生以上） ※この〔1〕は〔2〕の資料により処理する。
- 13才～15才（中学生）
- 7才～12才（小学生）
- 7才未満（幼稚園、保育園児など）

(3) 参考のため親子連れの組数を調べる。((1)、(2)とは別の独立したものとする。)

[2] 資料収集

(1) 谷口書店内の構造と周りの環境を調査する。

(2) 7月26日～8月1日の間に入荷された雑誌を調べる。

(3) NHK発行の国民生活時間県別編（55年度）を参考にする。

[3] アンケート調査

大阪府泉大津市の助松町および東助松町にある書店にアンケートをとる。

III 研究結果

[1] 人数調査

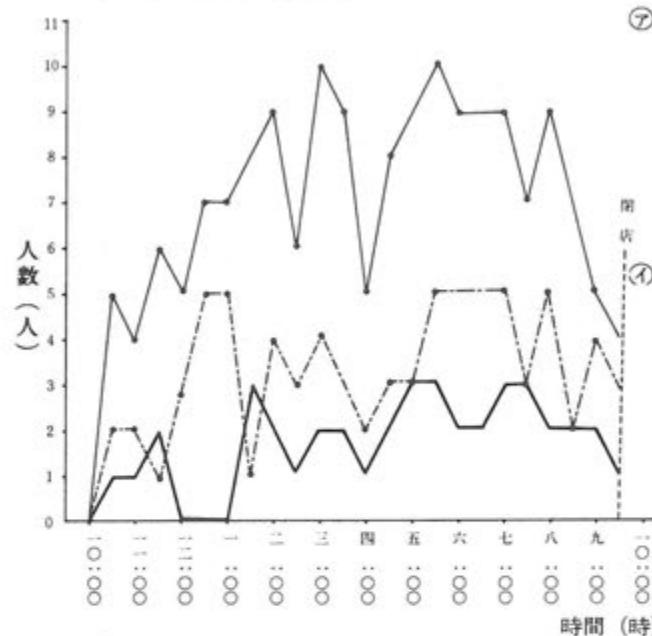
* 1日の変化については、平日の平均と土曜日と日曜日のグラフにわけて、処理をする。

* 16才以下のは、ほぼ0にちかいので、16才以上（大人）の男女だけを記入した。
それ以外の変化は、くわしく説明しない。

* グラフ中のーは合計、---は大人の男、一は大人の女を示す。

(1) 1日の変化

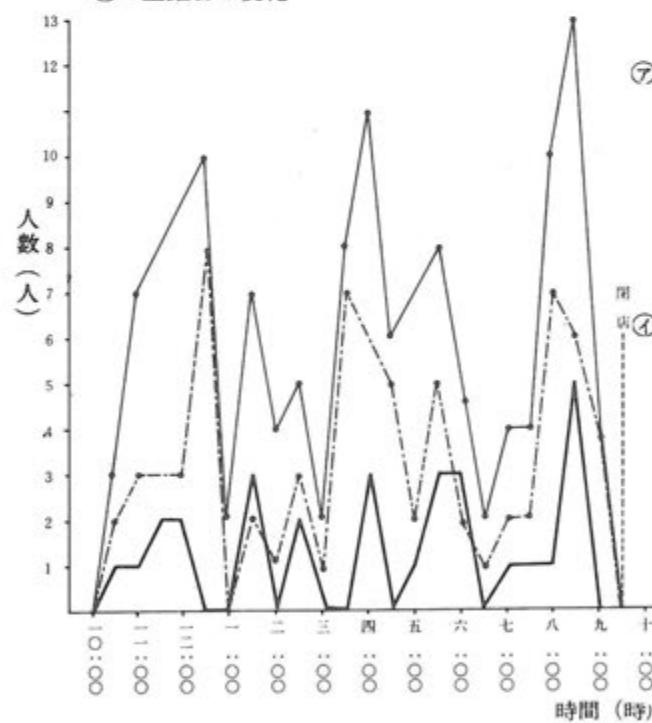
① 平日の変化（平均）



⑦この表からいえること

- 大人の男は十二時ごろと夕方ごろに多い。
 - 全体的に多いのは、十二時ごろと三時ごろと五時から六時ごろである。
- ④調べにいって感じたこと
- 小学生、中学生の女子は、友達どうしかたまつてきていた。
 - 高校生の人たちは、週刊誌（ジャンプ、サンデー等）などの置いてある所で立ち読みしていた。

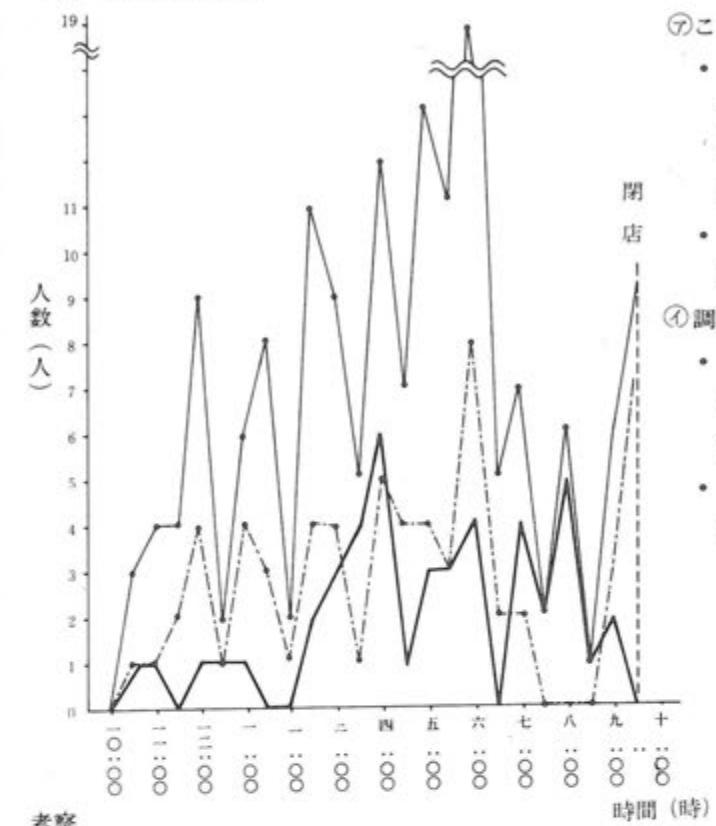
② 土曜日の変化



⑦この表からいえること

- 平日に比べ、全体的に人數が多い。
 - 大人の男、全体ともに、十二時半、四時、八時半にとても多い。
- ④調べにいって感じたこと
- 平日と同じ

(3) 日曜日の変化



考察

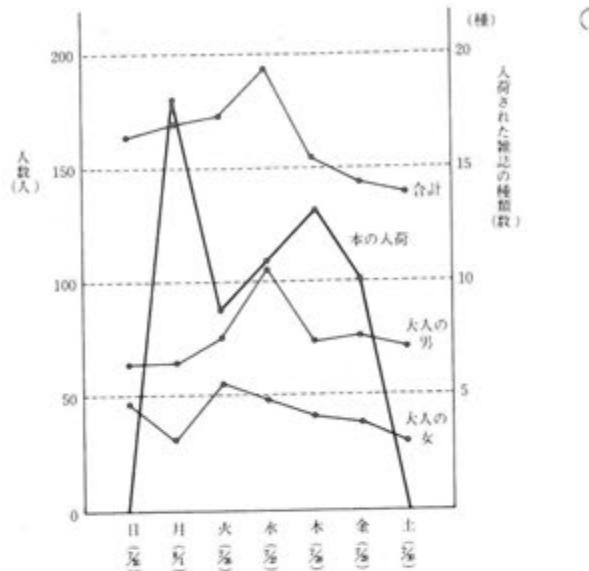
1日の内で、人々のくる時間帯を変化させるのは、生活のリズムと考えられる。なぜかというと、平日、土曜日の人の多い時、だいたい人々はどんなことをしているだろうと、国民生活時間県別編の大坂を調べてみると、昼休み、休養、通勤などをしている人が多い。通勤については、会社がない日曜日とくらべてみるとよくわかる。それは、日曜日の夜にくる人が少ないとことや、③の①などの事実である。つまり、本屋に入りは「ちょっとよっていこう」という気持ちで入っていることがわかる。まだほかに、このことを裏づけることはある。会社にいく平日、土曜日と、休暇の日曜日と、人々のくる時間帯が、全くちがうことである。つまり、会社にいく日の生活のリズムと、休暇の生活のリズムとがちがうから、人々のくる時間帯も、かわってくるのである。

国民生活時間……NHKが発行し、国民の行動を大分類では13、中分類では32に分類してある。そして、国民の1日の行動を、それによって分類してある。

⑦この表からいえること

- 平日、土曜日とちがって、十一時ごろから七時ごろまでの間、かなりの人がきている。
 - 平日、土曜日に比べ、夜にくる人が少ない。
- ④調べにいって感じたこと
- 会社がえりのような人は、あまり見当らなかつた。
 - ゆったりし、長時間いる人も少なくなかつた。

[2] 1週間の変化



考察

1週間の変化については、あまりくわしいことがわからなかつたけれども、週末に少なくなるのはいそがしいし、つかれてもくるから、すくなくなるのだろう。水曜日のふえているのについては、この日には、人気の高い、マンガの雑誌が発行されているからであろう。このように1週間の変化には、1日の変化のようなきちんとしたものはあまりなく、体の楽さ、ある程度の雑誌の影響など、わりと弱いものが要素になっているといえる。

—7月26日から9月1日までの週刊誌、月刊誌の入荷—

(火)	7月26日	週刊誌、一般的なもの	9種
(水)	7月27日	週刊誌、マンガ、ゴルフなど	11種
(木)	7月28日	週刊誌 一般的なもの	9種 月刊誌 服飾誌 4種
(金)	7月29日	週刊誌 一般なもの、マンガ、釣など	10種
(土)	7月30日	なし	
(日)	7月31日	なし	
(月)	8月1日	週刊誌 一般的なもの、マンガなど	6種 月刊誌 未就学、一年物12種

—7月26日から8月1日までの天気—

すべて快晴

[3] 谷口書店の内部構造と場所

内部構造



a: 辞書類

b: レジャー、スポーツ

c: 雑誌

d: 単行本

e: マンガ

f: 参考書

* マンガについては、すべてビニールによりパックされ立ち読みできなくなっているので、子どもの数が少ない。

[4] 店の人の話

(1) いつも、普段のようすは?

「やはり、人が多いのは、やっぱり夜、夕方ですね。その辺は夏休みも普段もかわりはないでしょうが、もっと長時間みていると、おもしろい映画、野球のあるときは人がすくなくなっていることとか、雨の日は、駅まえなので、雨やどりする人たちがいて、かえって多かったり、いろいろおもしろいことがありますよ。でも、あまりかわりありませんね。」と答えてくださいました。

(2) 特に人の多いときは?

「やはり、近くに清風南海高校があるからそこの学生さんが、電車をまっているときうちによってくださるから、列ができるほどいっぱいになりますね。」と答えてくださいました。

場所



*このような話をきくと、1週間で、自分はほんの一断面しか見ていないと思った。

IV まとめ

- (1) 人々が書店に出入りする要素は
- ・生活のリズム（昼休み、休養、通勤など）
 - ・気まぐれ（日曜日）
 - ・行事の有無（野球など）
 - ・気温の高さ、湿度の高さ（不快指数）
 - ・雑誌の入荷
 - ・雨晴のちがい

などがあげられる。

- (2) 書店は、だれでも気軽に出入りできる憩いの場としても活やくしていた。今後もそのようにつづくであろう。

V 感想

ぼく自身、店の人の根気強さがすこしわかったような気がする。今まで、商売なんて楽だろうと思っていたのだが、これをやり、改まった。結局、この研究は内容的にはうすくなってしまったが、このことがわかり、まあまあよかったです。この附中でもう長く行なわれてきている自由研究を、来年は内容のこいものにしたいと思う。

この自由研究に関しては、夏休みに行うので、普段の本屋が見られなかったということも残念でなりません。